

芹沢文学読書会

案内通信

No. 158

2022年10月16(日)

(令和4年)

10月便り

新型コロナウイルスの第7波が少しずつ減りつつあります。日本でも海外からの旅行者を制限無しに受入れようになりました。台風14号は、暴風で真上を通ることが心配されましたが、余り被害が無かったのは幸いでした。10月になり、朝夕は涼しくなりましたが、昼間は残暑が続いています。今年は柿が豊作で、実がなり過ぎています。甘柿は取って食べていますが、渋柿は熟柿になってカラスが食べています。今の子供達は、琵琶や柿などは食べないようです。涼しくなって、ラジオ体操の後に、近くの海浜への朝散歩をしています。台風の高波で砂が抉り取られ、木竹やゴミが沢山打ち上げられています。散歩しながら貝殻を拾い、プラスチックごみを拾っていますが、こんなになっては、片付けたり拾ったりする意欲がなくなってしまいます。熱心に片付けている人もいます…。

読書の秋です。芹沢文学読書会は続けています。マスクをして気楽に大分県立図書館へお出掛け下さい。読書会は、随想集『文学者の運命』の随想を二つずつ読み語っています。

秋深し
豊作の柿
カラス食う…
松林庵主人

第158回・芹沢文学読書会

①日時: 11月13日(日) 午前10時~12時 [*通常は第2日曜日午前です]

②会場: 大分県立図書館 研修室 No.2 [*今回は特別に研修室No.2です]

③内容: [I] 芹沢文学に関する話題や情報 10:00~10:10 am 自由に話す。

[II] 芹沢文学読書会 10:10~11:40 11:45~12:00 am 輪読

○テキスト 随想①「私は帝国大学に再入学しようとした」 随想②「文章をさがして」

*随想①は処女作「ブルジョア」が一等に当選し、「我入道」が縁で、朝日新聞の夕刊に『明日を遡って』を連載して作家として生きようとしています。文体を模索し、東大の文学部で学ぼうとしたこと。随想②は、自分の文章を求めての模索で、中国の取材旅や谷川徹三の助言、西田幾多郎の哲学のことが書かれています。

初出/『ノーベル賞文学全集』(主婦の友社発行)の月報。①昭和46年10月、月報13 ②昭和46年11月、月報14
初刊本/『文学者の運命』昭和48(1973)年6月10日 主婦の友社発行。98~113頁。

再録/『芹沢光治良文学館12』平成9(1997)年8月10日 新潮社発行に収録。61~69頁。

=次回は、来年の1月8日(第2日曜日)午前の予定です。=

◎同封資料 随筆「コム・マメール 一わが母の如く」 芹沢光治良 雑誌「ひまわり」ヒマワリ社
昭和22(1947)年9月1日[8・9月合併号]中原蒼二発行。巻頭。*画家中原淳一編集のカラー表紙の雑誌。その巻頭に書いた随筆。戦後の女性の生き方。本文の活字が小さいので拡大コピーした。[資料提供/中村輝子]

芹沢文学・大分友の会



連絡先: 〒872-1651 大分県国東市国東町浜 4765(番地) 小串信正方

FAX 0978(77)0565 郵便振替口座 01970-5-16072/芹沢文学・大分友の会

☆ 第157回・芹沢文学読書会の報告 於 大分県立図書館・研修室No2 J♪♪♪

第157回の芹沢文学読書会が、9月11日(日)に大分県立図書館の研修室No2で行われました。参加者が少なかつたのですが、熱心に読書会が行われました。

今回のテキストは『文学者の運命』の二随想「創作は疲れるものだ」「書齋のなかに大理石の素材を持ちこんでいるのだがー」でした。『芹沢光治良文学館12』(平成9年8月10日新潮社発行)の53~60頁を輪読しました。「創作は疲れるものだ」には、戦中に山荘の空地で野菜を作った体験を語り、創作も同じで疲れること、前田教授と語ったことが書かれています。「書齋のなかに大理石の素材を持ちこんでいるのだがー」では、作家は彫刻家と同じように、書齋に大理石を持ちこんで一心に彫刻しているのだと説き、ロダンの秘書になった詩人リルケのことを紹介しています。万年筆や原稿用紙はその道具であるに過ぎないと語っています。戦後の創作の苦痛から喘息になったとも書いています。

次回も、『文学者の運命』の二随筆を読み語ります。どうぞ、御参加下さい。

◎令和3(2021)年度 芹沢文学・大分友の会 会計報告(2021.9~2022.8) ♥◇♣♠

＝少し遅くなりましたが、会計報告をいたします。御了承下さい。＝

収入の部	前年度繰越	3,687円	支出の部	切手代	8,400円
	会費収入	14,290		文具代	2,415
	寄付収入	14,827		コピー代	14,435
	テキスト代	0			25,250
		32,804			

会計決算 32,804-25,250=7,554円(振替627+現金6927円)

会計責任 小串信正・会計監査 中村輝子

【現状と反省点】

①芹沢文学・大分友の会として「芹沢文学読書会」を26年間継続しました。大分市の出来本柳子さんが退会されました。会員数は10名になっています。芹沢文学研究会と兼ねる会員は7名です。読書会への参加者は約6名で行っています。何か工夫して新入会員を増やしていかなければなりません。新会員をお誘い下さい。読書会への御意見をお寄せ下さい。

②熱心な会員の篤志の寄付で、年会費を1200円に維持しています。読書会には参加出来ないが、通信会員として継続してくれている人々もいます。今後も御協力をよろしくお願いします。

次年度も、会報を年6回発行し、読書会を奇数月に年6回は継続して行きたいと思います。

○令和4(2022)年度の年会費の納入をお願いします(振替や持参で)。♫♪♣♠

9月から新年度になりました。年会費の納入をお願いいたします。篤志者の寄付により今年度の年会費も1200円に止めていますので、納入をお願いいたします。読書会に持参するか、同封の郵便振替の払込取扱票にて納入して下さい。寄付も受入れますが、無理をされないように。芹沢文学研究会の会員の方で、芹沢文学・大分友の会にも入会いただいている方々にも会員の継続をお願いいたします。

*どうしても退会されます方は、ハガキ等にて御一報下さい。